

耳鳴に鍼医学的体性感覚刺激や耳鳴反応点を用いる 治療法確立のための基礎的研究①

鶴 浩幸

鍼灸学講座 鍼灸学ユニット

演者は指頭での圧刺激や毫鍼刺激, 円皮鍼刺激が耳鳴を軽減, 消失させる場合のあることを報告してきた。本研究では頸部の経穴などに圧刺激や鋲鍼刺激, 円皮鍼タイプの非侵襲的鍼用器具による刺激などを行って耳鳴への影響を検討した。対象は健康成人ボランティア 7 名 (平均年齢 23 歳), 耳栓とイヤーマフを装着後に環境音が 33dB 以下の静かな部屋に入り, 安定した明確な耳鳴を感じる者とした。

入室後, 以下の介入による耳鳴変化を検討した。1. 頸部 5 ヶ所の経穴などに対して指頭での圧刺激を 1 箇所ずつ約 45 秒間行い, 2. 上記 1 により耳鳴が変化した部位 (耳鳴反応点) に対し, 1 箇所ずつ鋲鍼刺激を 60 秒間行った。3. 上記 1 により耳鳴が変化した全部位に対して, 一度に非侵襲的鍼用器具 (セイリン社製パイオネックス・ゼロ) を 60 秒間貼付した。耳鳴の大きさなどは visual analogue scale (VAS) や標準耳鳴検査法 1993 における耳鳴の自覚的表現の問診票に基づいて作成した評価表を用いた。

上記 1 により全例で耳鳴変化がみられ, 上記 2 では全例において大きさの軽減がみられた (7 例中 3 例は消失)。上記 3 では 7 例中 4 例において大きさの軽減がみられた。圧刺激や鋲鍼刺激により大きさが変化した場合には有意に減少した ($p < 0.05$)。非侵襲的鍼用器具でも大きさが軽減したが有意ではなかった ($p = 0.059$)。圧刺激の応用により耳鳴に有効な刺激部位を簡便に検出できることが示唆された。

謝辞: 本研究は JSPS 科研費 JP19K11729 の助成を受けた。